
RX210 グループ

チップバージョン B と C の相違点

R01AN1624JJ0100
Rev.1.00
2013.07.10

要旨

本アプリケーションノートは、RX210 グループのチップバージョン B と C の相違点を確認する際の参考資料です。

対象デバイス

RX210 グループ

目次

| | |
|--|---|
| 1. RX210 グループ チップバージョン B、C のラインアップ | 3 |
| 2. チップバージョン B、C の仕様差異 | 4 |
| 2.1 チップバージョン B で追加された機能 | 5 |
| 2.1.1 動作電力制御モードの追加 | 5 |
| 2.1.2 PLL 電源コントロールレジスタ(PLLPCR)の追加 | 7 |
| 2.1.3 16 ビットタイマパルスユニット(TPU)の追加 | 7 |
| 2.1.4 シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIc)チャンネルの追加 | 7 |
| 2.2 チップバージョン B で改善された機能 | 8 |
| 2.2.1 低速動作モード 1 の最大動作周波数の改善 | 8 |
| 2.2.2 RSPI 通信速度の改善 | 8 |
| 2.3 チップバージョン B で変更された機能 | 8 |
| 2.3.1 ソフトカットビット(SOFTCUT[2:0])の仕様 | 8 |
| 3. 参考ドキュメント | 9 |

1. RX210 グループ チップバージョン B、C のラインアップ

チップバージョン C は 64~100 ピンの 512KB、384KB のみです。

チップバージョン B は上記チップバージョン C を除く全てになります。

表 1.1 に RX210 グループ チップバージョン B、C のラインアップを示します。(B=チップバージョン B、C=チップバージョン C を示します)

表 1.1 RX210 グループ チップバージョン B、C のラインアップ

| ROM/RAM | ピン数 | | | | |
|------------|-------|-------|-------|--------|------------|
| | 48 ピン | 64 ピン | 80 ピン | 100 ピン | 144,145 ピン |
| 1MB/96KB | - | - | - | B※1 | B※2 |
| 768KB/96KB | - | - | - | B※1 | B※2 |
| 512KB/64KB | - | C | C | C | B※2 |
| 384KB/64KB | - | C | C | C | B※2 |
| 256KB/32KB | B | B | B | B | B※2 |
| 128KB/16KB | B | B | B | B | B※2 |
| 96KB/16KB | B | B | - | - | - |
| 64KB/12KB | B | B | - | - | - |

※1. RSPI のビットレート設定は最大 16Mbps まで設定可能

※2. RSPI のビットレート設定は最大 16Mbps まで設定可能、TPU を内蔵、SCIc は 12 チャンネル使用可能

2. チップバージョン B、C の仕様差異

チップバージョン B は、チップバージョン C と同じ機能を持ち、更に機能の追加と改善がされています。

チップバージョン B とチップバージョン C で共通する機能は、同じソフトウェアを用いることが可能です。

表 2.1 にチップバージョン B で追加された機能と、改善、変更された機能を、図 2.1 にチップバージョン B とチップバージョン C のソフトウェアの互換性について示します。

表 2.1 チップ B バージョンで追加された機能と、改善、変更された機能

| No | 機能追加、機能改善 | | 概要 | 参照 |
|----|-----------------------------|------|---|-----------------------|
| 1 | 動作電力制御モード | 機能追加 | 中速動作モード 2A、2B を追加 | 2.1.1 |
| 2 | PLL 電源コントロールレジスタ | 機能追加 | PLL の電源を ON/OFF するレジスタを追加 | 2.1.2 |
| 3 | 16 ビットタイマパルスユニット (TPU) | 機能追加 | 16 ビットタイマパルスユニットを追加 (144 ピン以上のピン数を持つ製品のみ) | 2.1.3 |
| 4 | シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIc) | 機能追加 | 6 チャンネル追加して合計 12 チャンネルが使用可能(144 ピン以上のピン数を持つ製品のみ) | 2.1.4 |
| 5 | 低速動作モード 1 | 機能改善 | 最大周波数を改善 | 2.2.1 |
| 6 | シリアルペリフェラルインタフェース(RSPI) | 機能改善 | 最大ビットレートが 8.0Mbps から 16.0Mbps に改善(チップバージョン B の 768K 以上のフラッシュメモリ容量製品または、144 ピン以上のピン数を持つ製品のみ) | 2.2.2 |
| 7 | ソフトカットビットの仕様 (SOFTCUT[2:0]) | 仕様変更 | ソフトウェアスタンバイモード時のフラッシュメモリへの電源供給制御機能なし。 | 2.3.1 |

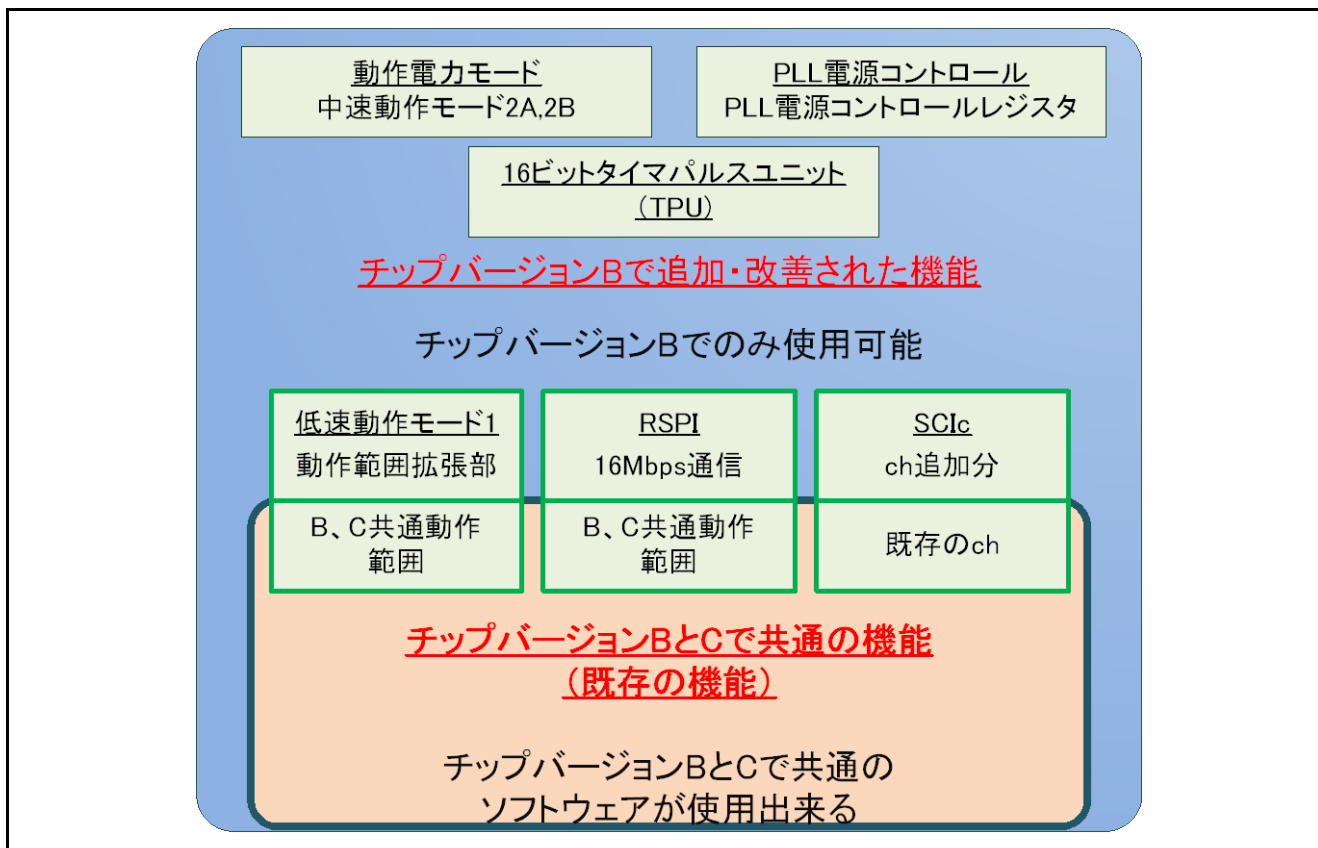


図 2.1 チップバージョン B とチップバージョン C のソフトウェアの互換性

2.1 チップバージョン B で追加された機能

2.1.1 動作電力制御モードの追加

チップバージョン B で中速動作モード 2A/2B が追加されています。

中速動作モード 2A は、中速動作モード 1A/1B よりもさらに低速動作向けに消費電力を低減したモードです。

同条件(周波数・電圧)で同じ動作をさせる場合、中速動作モード 1A/1B よりも消費電力を低減できます。

中速動作モード 2B は、中速動作モード 2A をベースに、低速・低電圧動作範囲でのフラッシュメモリ P/E 向けに消費電力を低減したモードです。

フラッシュメモリリード時の動作周波数範囲・動作電圧範囲は中速動作モード 2A と同じです。

図 2.2 に中速動作モード 2A の動作周波数と動作電圧範囲を、図 2.3 に中速動作モード 2B の動作周波数と動作電圧範囲を示します。

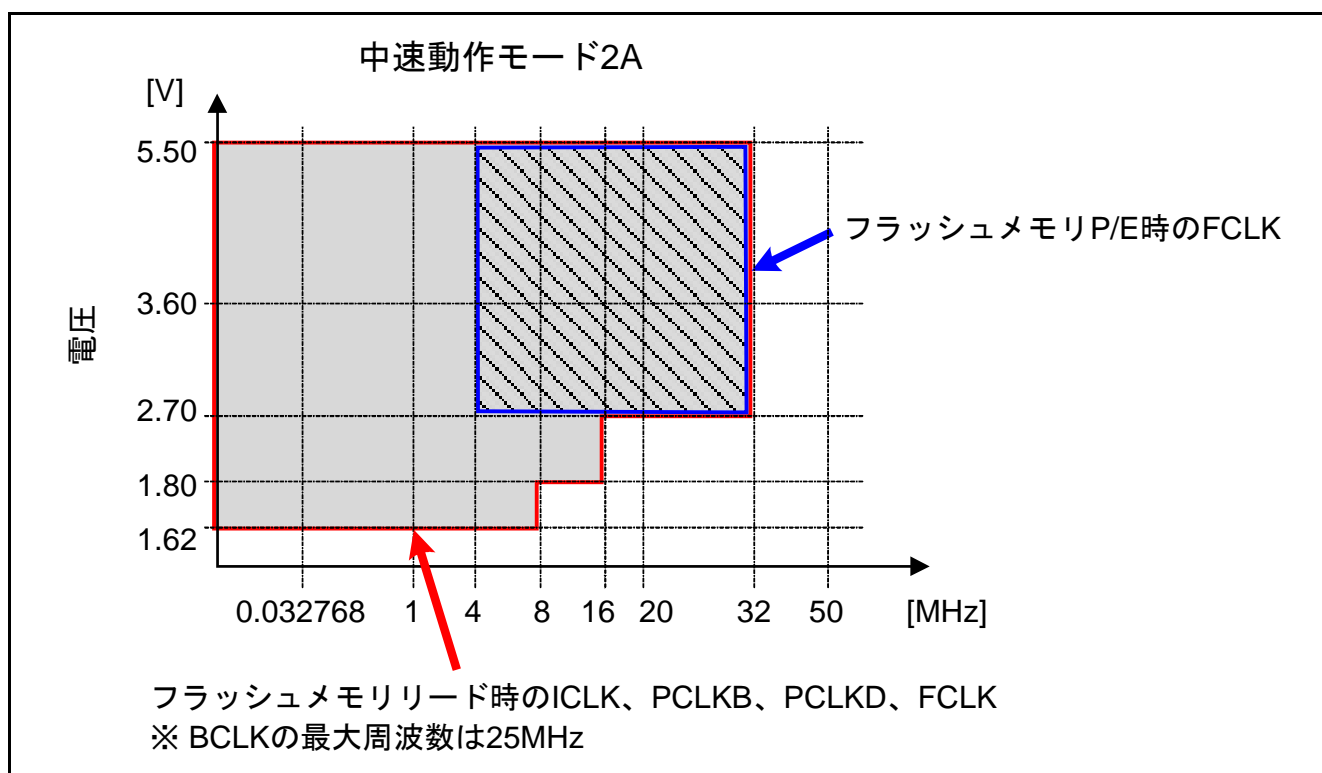


図 2.2 中速動作モード 2A の動作周波数と動作電圧範囲

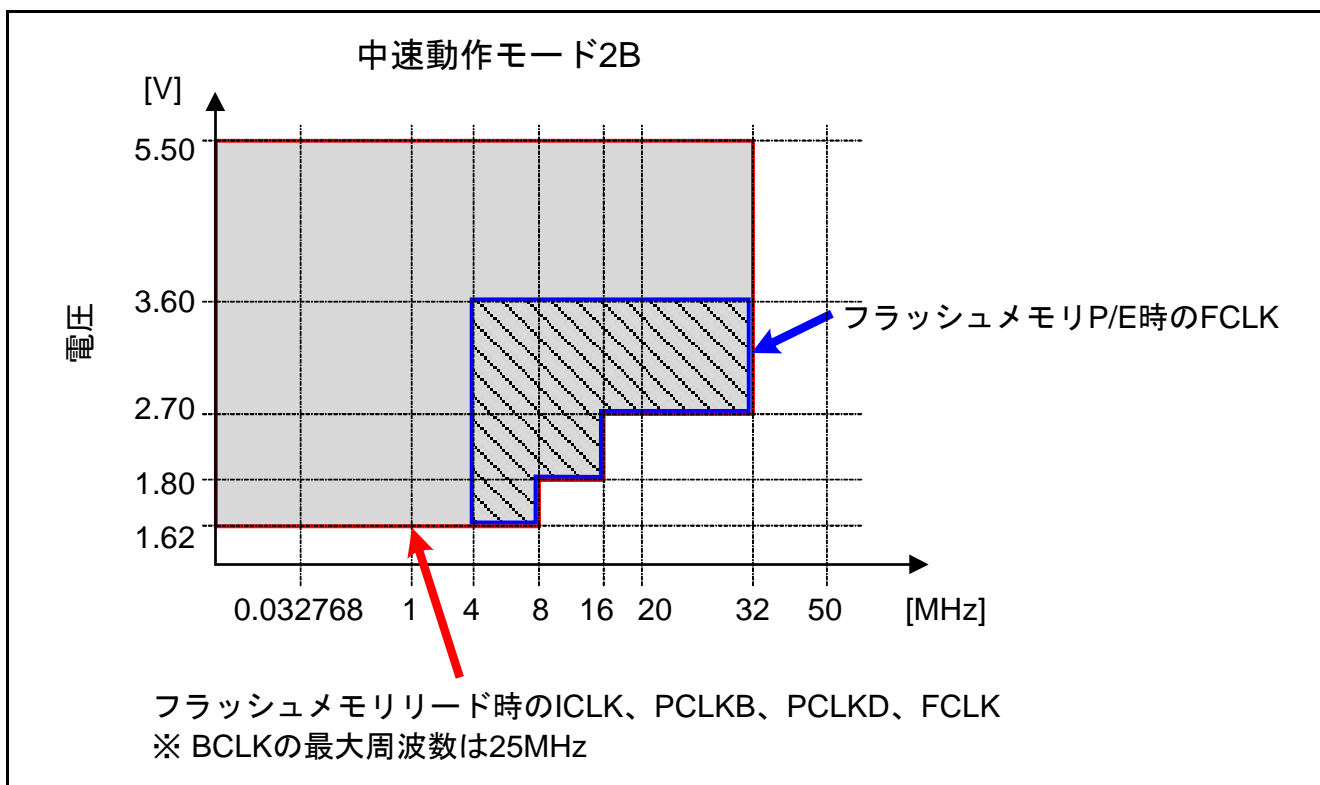


図 2.3 中速動作モード 2B の動作周波数と動作電圧範囲

2.1.2 PLL 電源コントロールレジスタ(PLLPCR)の追加

PLL 電源コントロールレジスタ (PLLPCR)は、チップバージョン B のみに存在するレジスタで、PLL を使用しない場合、PLL の電源を切り、消費する電力を低減することができます。

2.1.3 16 ビットタイマパルスユニット(TPU)の追加

6 チャンネルの 16 ビットタイマで構成される 16 ビットタイマパルスユニット(TPU)です。

チップバージョン B の 144 ピン以上の製品に実装されている周辺機能です。

2.1.4 シリアルコミュニケーションインタフェース(SCIc)チャンネルの追加

チップバージョン B の 144 ピン以上のピン数を持つ製品については、SCIc の 12 チャンネル(SCI0～SCI11)全てが使用可能です。

表 2.2 にパッケージ別 SCIc チャンネル対応表を示します。

表2.2 パッケージ別 SCIc チャンネル対応表

| チャンネル | パッケージ | | | | |
|-------|--------|-------|-------|--------|------------|
| | 48p ピン | 64 ピン | 80 ピン | 100 ピン | 144、145 ピン |
| SCI0 | × | × | ○ | ○ | ○ |
| SCI1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| SCI2 | × | × | × | × | ○ |
| SCI3 | × | × | × | × | ○ |
| SCI4 | × | × | × | × | ○ |
| SCI5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| SCI6 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| SCI7 | × | × | × | × | ○ |
| SCI8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| SCI9 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| SCI10 | × | × | × | × | ○ |
| SCI11 | × | × | × | × | ○ |

2.2 チップバージョン B で改善された機能

2.2.1 低速動作モード 1 の最大動作周波数の改善

チップバージョン B では、低速動作モード 1 の各クロックの動作周波数範囲を改善しています。

表 2.3 にチップバージョン B と C の低速動作モード 1 の比較を示します。

表 2.3 低速動作モード 1 の比較(VCC=2.7~5.5V)

| 電圧 | 最大動作周波数 | |
|---------------|---|------------|
| | フラッシュメモリリード時の ICLK、FCLK、PCLKB、PCLKD、BCLK | |
| | チップバージョン B | チップバージョン C |
| VCC=2.7~5.5V | 8MHz max | 1MHz max |
| VCC=1.8~2.7V | 4MHz max | |
| VCC=1.62~1.8V | 2MHz max | |

2.2.2 RSPI 通信速度の改善

チップバージョン B の 768K 以上のフラッシュメモリ容量製品または、144 ピン以上のピン数を持つ製品については、最大ビットレートは 16.0Mbps です。それ以外の製品は、最大ビットレートは 8Mbps です。

2.3 チップバージョン B で変更された機能

2.3.1 ソフトカットビット(SOFTCUT[2:0])の仕様

ソフトウェアスタンバイモード中の POR の低消費電力機能、HOCO への電源供給、フラッシュメモリへの電源供給はソフトカットビット(SOFTCUT[2:0])の設定で制御します。

チップバージョン B では、フラッシュメモリへの電源供給を制御する必要はありません。

ソフトウェアは、チップバージョン C と同じものを用いることが可能です。

3. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル：ハードウェア

RX210 グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.40 (R01UH0037JJ)
(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート／テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/contact/>

| | |
|------|---|
| 改訂記録 | RX210 グループ アプリケーションノート チップバージョン B と C の相違点 |
|------|---|

| Rev. | 発行日 | 改訂内容 | |
|------|------------|------|------|
| | | ページ | ポイント |
| 1.00 | 2013.07.10 | — | 初版発行 |
| | | | |

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレスのアクセス禁止

【注意】リザーブアドレスのアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレスがあります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、事前に問題ないことをご確認下さい。

同じグループのマイコンでも型名が違っていると、内部メモリ、レイアウトパターンなどの相違などにより、特性が異なる場合があります。型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、
防災・防犯装置、各種安全装置等
当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っていません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社 〒100-0004 千代田区大手町 2-6-2（日本ビル）

(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/contact/>